

2026 年 4 月 6 日

Press Release

報道関係・教育担当記者 各位

南山大学人類学博物館 2026 年度博物館講座  
「立ち向かう音楽—立ち直る音楽」(全 4 回) 開催のお知らせ

平素は、本学の広報活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
さて、本学人類学博物館では下記のとおり博物館講座を開催いたします。つきましては、ぜひ取材、報道等で、広く一般にご周知いただけますと幸いです。なお、恐れ入りますが、取材にお越しいただける場合は、事前に南山大学人類学博物館までご連絡をお願いいたします。

記

- ◆内 容 : ①6/6 (土) 「困ったときこそ歌って踊る—シヨナ社会の宗教儀礼と音楽」  
講師 松平勇二 氏 ノートルダム清心女子大学 准教授
- ②6/13 (土) 「関係を編み直す歌—ラオスのラム歌謡と回復のミュージッキング」  
講師 平田晶子 氏 愛知大学 准教授
- ③6/20 (土) 「エチオピア、吟遊詩人が照らす社会と生死」  
講師 川瀬慈 氏 国立民族学博物館 教授
- ④6/27 (土) 「笛でやつらを吹き飛ばせ—反骨のポリビア・フォルクローレ音楽家たち」  
講師 相田豊 氏 上智大学 特任助教  
共演 PONISHI  
(ポリビア・フォルクローレ楽団: 朝倉隆文氏、西川哲氏、羽深愛氏)

いずれも 13 時 30 分~15 時 30 分

- ◆会 場 : 南山大学 R 棟 4 階 R49 教室、人類学博物館
- ◆受 講 料 : 4,000 円 ※学生は 2,000 円 (全 4 回)
- ◆申 込 方 法 : 当館ウェブページ(下記 URL)にアクセスし、申込フォーム画面へお進みください。  
<https://rci.nanzan-u.ac.jp/museum/news/event/004495.html>
- ◆申込期間 : ~2026年5月18日(月)まで

以上

# 南山大学人類学博物館 2026 年度博物館講座

レクチャー&パフォーマンス



## 第1回 6/6 (土)

松平勇二氏 (ノートルダム清心女子大学 准教授)

「困ったときこそ歌って踊る——

シヨナ社会の宗教儀礼と音楽」

## 第2回 6/13 (土)

平田晶子氏 (愛知大学 准教授)

「関係を編み直す歌——ラオスのラム歌謡と

回復のミュージッキング」

## 第3回 6/20 (土)

川瀬慈氏 (国立民族学博物館 教授)

「エチオピア、吟遊詩人が照らす社会と生死」

## 第4回 6/27 (土)

相田豊氏 (上智大学 特任助教)& PONISHI

「笛でやつらを吹き飛ばせ——

反骨のボリビア・フォルクローレ音楽家たち」



お問合せ：南山大学人類学博物館  
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18  
火曜～土曜 10:00～16:30  
Phone: 052-832-3147  
E-mail: a-museum@nanzan-u.ac.jp

# 「立ち向かう音楽—立ち直る音楽」

【会場】

南山大学 R 棟 R49 教室および  
人類学博物館 (R 棟地下1階)

【時間】

13:30～15:30 (休憩あり)

【受講料・全4回】

一般 4000 円 / 学生 2000 円

参加申込は  
QR コードから



申込期間 4/1 (水)～5/18 (月)

(定員に達し次第受付終了)



自然災害や社会的分断、日常生活に至るまで一人びとはさまざまな困難のなかで、音楽とともにどのように抗い、癒やされ、回復してきたのでしょうか。本講座では、ジンバブエ、ラオス、エチオピア、ボリビアなど世界各地で調査・研究と音楽実践を重ねてきた4名の講師によるレクチャーとパフォーマンスを通して、音楽がもつ社会的・文化的な力を体感的に学びます。



写真上から  
ラオス調査村、ヤオ治療の場面 (2010年 平田晶子撮影)  
ジンバブエの宗教儀礼にて (2026年 松平勇二撮影)  
フォルクローレ音楽演奏グループ (2019年 相田豊撮影)  
酒場でのアズマリとのやりとり (2022年 川瀬慈撮影)

# 「立ち向かう音楽—立ち直る音楽」

## 第1回 6/6 (土)

松平 勇二氏 (ノートルダム清心女子大学 准教授)

### 「困ったときこそ歌って踊る—— シヨナ社会の宗教儀礼と音楽」

ジンバブエ共和国では、音楽が政治的にも宗教的にも非常に重要な役割を果たしている。そこに暮らすシヨナ人の中には、困り事があると霊媒師を訪ね、歌い、踊り、語り合いながら問題を解決していく文化がある。講演では、シヨナ社会の概要を紹介したうえで、宗教儀礼で用いられる音楽を実演し、その臨場感を体験してみる。また、代表曲「ネナムサーサ」から読み取れるシヨナの人々の口頭伝承や生き方についても深く掘り下げる。さらに、名古屋で活動するジンバブエ音楽グループもゲストとして参加予定である。



若手の音楽グループ Madirirano Mbira Group のビデオ撮影を終えて (2026年 松平勇二撮影)

## 第2回 6/13 (土)

平田 晶子氏 (愛知大学 准教授)

### 「関係を編み直す歌——ラオスの ラム歌謡と回復のミュージッキング」

ラオスには、ケーン (ラオスの笙) の伴奏に合わせて人びとが歌い、踊り、音楽を囲んで集まる「ラム歌謡」という歌唱文化がある。ラム歌謡は、娯楽として親しまれる一方で、人びとが困難に直面したときに心身の回復や人間関係の立て直しを支える役割も果たしてきた。本講演では、山地の村で行われる歌とケーンの演奏を手がかりに、音楽がどのように人びとを集め、家族や祖先とのつながりを呼び戻し、回復へと導くのかを紹介する。音楽そのものが「治す」のではなく、歌を通して人びとの関係が編み直されることで立ち直りが生まれる——その過程を具体的な事例から考える。



ラオス調査村にて (2009年 カウンターパート撮影)

## 第3回 6/20 (土)

川瀬 慈氏 (国立民族学博物館 教授)

### 「エチオピア、吟遊詩人が照らす 社会と生死」

本講義では、鋭利な社会風刺や即興的なパフォーマンスを通じ、自明視された日常を鮮やかに「異化」するエチオピアの吟遊詩人集団、アズマリヤラリベラを紹介する。講師が長年のフィールドワークに基づき制作した民族誌映画の上映を交え、彼らの生活世界を多感的に描き出す。社会を映し、批判し、生死の深淵を照らし出し、神の祝福を反映する「声」。音楽が娯楽を超え、現実の認識を組み替え、苦難に抗うための「術 (アート)」となる過程を考察する。



登壇者近影、アジスアベバにて (2023年 Endalk Fanuel 撮影)

## 第4回 6/27 (土)

相田 豊氏 (上智大学 特任助教)

### 「笛でやつらを吹き飛ばせ——反骨の ボリビア・フォルクローレ音楽家たち」

南米ボリビアで1970年代に「新しい音楽」として興隆したフォルクローレ。ケーナやサンポーニャなどの笛や、チャランゴといった民俗楽器の音楽は、日本の私たちにはどこか郷愁を誘うものであるが、その裏には明かされざる「もうひとつのドラマ」が存在している。個人の物語を愛し、他者の音を聴かず、堂々と嘘を楽しむ…。そんなボリビアの音楽家たちが時代に抗ってまで勝ち取ろうとしたものは何だったのか。彼らの戦いはその後どうなったのか。本講座では、ボリビア音楽演奏グループ「ポニシ」の演奏とともに、ボリビア音楽家たちの生について考える。



登壇者、ステージにて (2019年 Sonia Pérez Mamani 撮影)

## PONISHI (ポニシ) 6/27 (土) 共演者: 朝倉 隆文氏・西川 哲氏・羽深 愛氏

ボリビア音楽をこよなく愛するメンバーで2023年に結成されたアマチュアバンド。高山都市ラパスの音楽を中心に、ボリビアの音楽を演奏している。メンバーは出身地も、仕事も、年齢も、今住んでいるところも様々。